

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
平成 28 年度 事業報告

目 次

I 法人概況	1
1 はじめに	1
2 重点計画に対する達成状況	2
II 各部門別報告	4
A. 障害者支援施設「洛西寮」	4
【各事業】	4
1. 生活介護「ちくりん」	4
2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」	6
3. 施設入所支援（夜間支援）	7
【各サービス内容】	8
1. 健康管理	8
2. 食生活と栄養管理	10
3. 歩行訓練	11
4. 余暇活動支援（共通の活動）	12
5. 買い物支援サービス	13
6. ボランティア支援サービス	14
B. 三療事業部	15
1. 盲人ホーム 美鈴	15
2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」	16
C. 法人	17
1. 事務局	17
2. 点字出版施設「紫野点字社」	20
3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業	21
4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」	23
5. 主催行事	24
6. 共催事業	27

I 法人概況

1 はじめに

平成 28 年 4 月からは、「障害者差別解消法」と「改正障害者雇用促進法」の施行がされる中で、「入所施設支援、生活介護、就労継続支援 B 型事業所及び、三療事業部（らくさい治療院＝就労継続支援 A 型、盲人ホームの 2 事業部門）を併せ持つ本法人にとって、利用者確保、財政運営、支援体制の確保等、課題克服の日々であった。

また、平成 29 年度から国が進める「社会福祉法人改革」の動きへの対応では、理事会、評議員会の議決の後、認可手続きを経て、年度末には、次年度からの円滑な移行に向けて万全を期した。

福祉制度面では、平成 30 年度に迫った障害者総合支援法の大改革に向け、障害支援区分認定の行方や介護保険との課題整理など、その動きを注視して行かなければならない。特に、障害者福祉サービスが公的支援（税金）によって賄われるのに対し、65 歳を超えた障害者が 1 割負担を原則とする介護保険による「65 歳問題」の動きには充分注目しなければならない。そうした意味からも、障害者総合支援法が限りなく介護保険との統合の方向へ傾斜しているところが危惧される点である。

事業面から見ると、一つは、洛西寮の利用者の減少傾向に対する歯止めがかからないまま年度末を迎えたことである。年度当初に比べ、施設利用者全体で 7 名減、特に、らくさい作業所では年度当初 23 名であったのに対し、年度末には 17 名（27 パーセント減）に落ち込んだ。中でも、施設開所以来安定的な入・通所者の確保を維持していたのに対し、今年度は、年間を通じて 4 名の退所者のうち、入所 2、通所 1 の計 3 名が盲養護老人ホームへの入所（うち 2 名が今年度に竣工した京都ライトハウス朱雀入所）となった。このことを過去 2 年間で見ると、他施設への入所のための退所者数は 8 名（全利用者の 20% 近く）に達しており、現時点で長期入院 1 名をも含めると入所者定員の 80% 維持も困難になりつつある。

二つには、法人内の 2 ヶ所の三療事業所が昨年度に引き続き比格的堅調に推移したのに対し、事業部長の退任、従業員の相次ぐ事故や病気による療養など、体制維持に苦戦した 1 年間であった。その中で、晴眼者のあんま・マッサージ・指圧師を養成する施設や学校を運営する「平成医療学園」から提訴された「あはき違憲訴訟」が大阪・東京・仙台で公判が始まり、年度末までに 3 回、大阪地裁に傍聴者を派遣した。このことは、本法人が現在の三療事業所を開設するに至った歴史的な背景を学びつつ、今後この運動の成果を受け継ぐための取り組みとして、位置付けたものであった。

三つには、創立 30 周年記念事業に位置付けて取り組んだ施設整備が終了したことである。洛西寮館内エレベータのリニューアル工事の完成、社会福祉法人清水基金による点字製版機の更新、公益財団法人京遊連社会福祉基金からの巡回相談用車両の贈呈など、施設整備環境は大きく改善された。

四つには、京都府が本法人に委託する「京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業」において、9 月から南部相談員の補充が実現したことである。また年度末には、福知山以北の巡回相談員の活動エリアを担う相談員の事業委託を、京都府が社会福祉法人丹後視力障害者福祉センターに委託をしたことから、事業創設以来、本法人に限られた財源の中で、北部地域までの派遣に苦慮していた事業運営が解消された。その結果、本法人の派遣エリアは、南丹京丹波地域以南となり、亀岡市、乙訓、府内

南部の山城北及び、南部圏域の責任を持つこととなった。今後は、本法人と丹後視力障害者福祉センターとの連携を通じて、府内の中途視覚障害者に対する巡回相談活動を展開して行きたい。

五つには、人事面での体制補充である。産休・育休職員の補充に加え、前年度からのアルバイト職員と年末の中堅職員の退職に際し、急遽人事異動と非常勤職員の採用などで急場を凌いだ。しかし、前年度において、夜間宿直体制の不備を指摘され、夜勤職員の体制整備に入ったところ、夜勤の質的な向上は図られたものの、人件費の高騰などで、財政を圧迫しただけで、複数夜勤体制整備には及ばなかった。

以上、年間を通じて、困難な体制維持の中、利用者の安定確保、職員研修の拡充、安全・安心を担保するための手だてなどに力を入れたが、組織的で、系統的な取り組みの弱さなどに加えて、当面する中長期計画への取り組みの立ち遅れなどをも含めて、次年度に大きな課題を残した。

2 重点計画に対する達成状況

1. 新しい事業推進計画の構築

- ① 働き続けられる事業所の理念の実践
- ② 個々人のライフサイクルに対応した快適な生活支援の拡充
- ③ 自立と共生の地域づくりに向けた社会貢献
- ④ 「これからの洛西寮」のビジョン検討

→40%

「これからの洛西寮」の取り組みが道半ば。①～③は引き続き理念追求。

2. 利用者支援の拡充

- ① 生活・作業支援プログラムの作成一年間ロードマップの作成（事業所共通）
- ② 夜間支援の拡充（施設入所支援）
- ③ 個別支援計画の作成過程の見直しと評価方法の学習（ちくりん、らくさい作業所）
- ④ 点字作業に関わる利用者の到達度調査と育成支援計画の推進（らくさい作業所）

→50%

①～③は一定前進したが、④は手付かず。

3. 情報発信と事業の活性化

- ① 三療のニーズの発掘に向けた事業拡充（らくさい治療院、美鈴）
- ② オリジナル製品の開発等、営業活動の強化（らくさい作業所）
- ③ 第6回視覚障害者支援ボランティア養成講習会の継続開催（後援会）
- ④ 点字講習会の地域開催及び、所内職員点字スキルアップ研修会の企画（法人）

→50%

①～③は、一定前進したが、④は手付かず。

4. 職員の資質向上、研修の拡充

- ① 各種対外研修会への職員派遣
- ② 事例研究・学習会の開催
- ③ 虐待防止等に関する職員の定期研修
- ④ 「全国盲重複研究会」への主体的な参加
→80%

法人内の職員研修会は目標通り達成。盲重複研究会での報告を実施。

5. 安全・安心・保健衛生対策の拡充

- ① 洛西寮内の居室環境整備の定期化
- ② 安全防災に関する年間計画の策定
- ③ 休日及び、夜間緊急対応マニュアルの実践
→60%

①～②は大きく前進。③は、夜勤体制で一步前進した。

6. 財政運営の健全化

- ① 施設利用者の安定確保
- ② 計画的な財政運営とタイムリーな社会貢献活動の活用
- ③ 支出節減・エコ対策
→30%

①は0評価、②は社会貢献活動の積極的な活用で整備実現。③は、清掃業者などの見直しで一步前進。

7. 後援会活動の拡充

- ① 洛西寮まつり、施設オープンデー企画の後押し
- ② 施設と地域を結ぶ企画の具体化（読み書きサービス、地域健康教室、ボランティア養成講習会等の開催）
→40%

後援会活動休止状態、ボランティアによる読み書きサービス、洛西寮まつりは例年並み。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」

概要

今年度は、例年になく退所される利用者が非常に多くでた。内訳として、入所利用者3名、生活介護3名（新規利用者2名）、就労継続支援B型7名（新規利用者1名）と多く、財政基盤を揺るがしかねない厳しい年度となった。そのために来年度の利用者確保をはじめ、法人事業全体の中期計画立案のための（仮称）「ビジョン検討委員会」の立ち上げを検討しているところである。

利用者の個別支援計画については、今年度も総合的な支援計画を作成するため、栄養ケアマネジメントと支援計画会議を一緒に実施した。

その他「ケース情報交換会」を開催し、事務職員も含めた全職員で行うことを重視し、利用者個々の支援の共通認識の確認を行い、利用者1人1人についての理解を深める場とした。

【支援計画】

概要

今年度より、全体会議前に担当支援員との個別会議を行うことで、持ち越しを繰り返した昨年度の課題を解消し、毎月定期的に円滑に全体会議を進めることができた。

また、計画やモニタリング作成が滞ることなく、進めることも増えた。

支援計画会議を全支援員で行うことを重視し、事業所を越えた共通認識の確認や、利用者1人1人についての理解を深める場とした。

書類作成優先ではないことを意識し、より良い支援につなげられるよう努めた。

【各事業】

1. 生活介護「ちくりん」

概要

日中活動（生産活動・レクリエーション等）及び利用者ニーズに応じた個別支援を実施し、生活の質の向上を図ると共に、余暇活動等を通じて楽しみの時間を提供しリフレッシュ出来るよう充実した生活が送れるよう支援に努めた。

成果

- ① 年間計画プログラムを作成したことにより、スムーズに日中活動等が取り組めた。
- ② 毎週月曜日を生活支援（居室支援）とし、個々の利用者に応じた支援の強化に努めた。
- ③ 今年度より生産活動においては、時間帯の短縮により30分作業時間は少なくなったことと、ちくりん利用者の退所により利用者数の変動はあったが、昨年以上の生産量アップとなった。
- ④ 利用者の希望を聞き取り、全職員の協力を得てバースデー企画を実施した。
- ⑤ 全員参加を目指し、利用者の希望の多い内容等を取り入れ、日帰りレクリエーション、毎週金曜日のレクリエーションを企画し実施した。
- ⑥ 生産活動、レクリエーション等においてボランティアの協力が得られた。

- ⑦ 生産活動時間を短縮し、利用者状況確認等のミーティング時間を設け実施し、支援員の情報の共有化を図った。

課題

- ① 個別支援計画に基づいた利用者対応への支援員の共通認識と統一した支援の実施・継続。
- ② 必要に応じ、家族や関係機関との連絡・相談を行い、個別支援や課題の実施・解決に努める。
- ③ 障害特性についての基本的知識等の研修会（学習会）への参加
- ④ 生産活動において、らくさい作業所との連携を図る
- ⑤ 安全・安心な作業場環境の整備。（作業机、棚等必要に応じた新規購入）

実績

① 日中活動一覧表

科目	内容
生産活動(箱作業)	京菓子箱：八つ橋・ようかん
調理実習	よもぎ団子、かき氷、月見団子、鬼饅頭、抹茶体験等、
外出	花見、喫茶、ボーリング、カラオケBOX、買物、
創作活動	七夕飾り作り
娯楽	カラオケ、DVD鑑賞、デイズ、ティータイム
ちくりん行事	日帰りレクリエーション（あべのハルカス）、忘年会（外食）、新年会
バースデー企画	誕生日月に希望先に外出
その他	卓球バレー

② 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
223月	14,963時間	2,608,041円	11,695円	174.3円

2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

概要

らくさい作業所の方針「働くことを通して社会性を身につけ、人との関わりを学ぶ」に基づき、協調性・責任感・作業意欲を意識できるように働きかけ、それぞれの利用者が作業を通して様々な経験が積めるように支援した。

生活支援においては、個々の利用者に応じた支援を行い、相談支援にも時間をかけ、安定して通所できるよう努めた。

成果

- ① 何度も会議を重ね、新製品作りに向けた取り組みを行った。
- ② 色々な作業の納期を守りつつ、様々な作業を取り組む機会を設けた結果、マシンや点字印刷ができる利用者が増え、技術力アップにつながった。
- ③ 作業効率、作業工程についての検討を行い、マシンや点字印刷作業の効率アップが実現した。
- ④ 点字製版機の更新により、点字印刷の生産力がアップした。
- ⑤ 作業机、椅子の配置図の作成や番号シールを貼るなど、作業環境の整備を行った。
- ⑥ できる限り利用者主体で取り組めるよう支援した。特にレクリエーションは、利用者のレクリエーション委員が、企画から主体的に進め、皆が楽しめるよう取り組めた。
- ⑦ 作業中でも柔軟に個別相談の時間を設けたり、入所利用者の生活支援、買い物支援を月に1度ではあるが定期的を実施し、生活の質の向上に努めた
- ⑧ 見通しを立てた作業計画を目指すことで、作業延長だけではなく、繁忙期後の作業短縮も実現した。
- ⑨ 支援員の異動が多くあったが、作業が滞ること無く継続できた。

課題

- ① 支援員の作業技術・知識の向上。
- ② 利用者のできる作業、かつ、売れる商品作り
- ③ 点字校正者の育成
- ④ 様々な作業にも対応できる従事者の拡充
- ⑤ 自主製品の価格・内容の見直し
- ⑥ 利用者の自主性・協調性を養う環境づくり
- ⑦ 利用者個々の障害特性に合わせた支援
- ⑧ 生活支援の時間確保、質の向上
- ⑨ 工賃向上に向けた目標設定と売上管理
- ⑩ 作業スペース・安全確保

実績

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、選挙、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生 PR ポスター等
ミシン縫製	下請：和装用袋、ひも通し、袋物 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上（円）
点字	9,022,933
自主製品	719,050
縫製下請	511,319
箱作業	858,195
数珠加工	205,240
黒豆茶	429,450
自販機	312,938
合計	12,059,125

③ 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
229月	19,418時間	6,578,360円	28,726円	338.8円

3. 施設入所支援（夜間支援）

概要

夜間支援における安全・安心な生活環境の整備、危機管理対策のため、夜間支援の業務の見直しや、遅出勤務の業務の見直し等検討を行い、夜間支援における安全・安心な生活の質を高めるための生活環境作りに努めた。

また居室の衛生環境面を整備するため、毎週1回定期的に支援員による居室の清掃を実施した。

成果

- ① 遅出勤務体制により、利用者個々の相談、生活支援、夕食時の見守り、館内巡回強化（特に夕食前の巡回徹底）により、利用者間のトラブル等未然に防ぐことが出来た。
- ② 利用者からの要望により、男性入浴時間・順番等の見直しを行った。
- ③ 緊急時の「洛西寮防災マニュアル」を作成した。
- ④ 緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持した。
- ⑤ 支援員連絡会にて日勤者から夜勤・遅出勤務者への申し送り等を行い、利用者個々の情報の共有化が図れた。
- ⑥ 長期休暇及び、週末の申し送り業務の周知徹底。
- ⑦ 休日及び夜間想定の方災訓練（火災2回、水害1回）を実施した。
- ⑧ 業務日誌を1日単位での記録書式を検討し、来年度実施することが確認された。（夜勤日誌・日直日誌・巡回日誌・遅出日誌の一元化）
- ⑨ 館内の巡回当番業務を明確化し、衛生管理に努めた。

課題

- ① 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策における夜勤職員業務及び、遅出職員業務の見直しを継続検討
- ② 施設内の衛生環境の強化（居室、館内等共用部分）
- ③ 夜勤職員・日直職員との連絡会の定期化
- ④ 休日及び長期休暇の余暇活動の実施

【各サービス内容】

1. 健康管理

概要

- ① 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
- ② 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

成果

- ① 定期的に血圧・体重測定・検尿を実施、嘱託医に個々の健康相談や身体状況等、随時報告を行い、迅速に医師の指示を仰ぐことが出来た。
- ② 24時間嘱託医に電話連絡が可能となり、医療ケア体制が拡充した。

- ③ 通所者については、適宜、各主治医へ文書での報告、相談を行い医師との連携を図った。単独通院者に関しても、適宜、通院に同行する事で、より詳しく身体状況が把握出来、必要な支援がより明確になった。
- ④ 利用者緊急用カルテを整備し、救急時や通院介助時活用した。
- ⑤ 館内・手すり・流し等の消毒、うがい・手洗い・換気・マスク励行・全員の検温等、感染予防の取組みを行い、発熱者の早期隔離により、インフルエンザの拡大を防ぐことが出来た。

課題

- ① AED設置・救命講習の実施
- ② 各種検診の必要性周知、受診促進

実績

① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(8・2月は全員)	118	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	524	洛西寮看護師	洛西寮医務室
5月	胃癌検診	40才以上	7	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40才以上	11	京都予防医学センター	洛西支所
7月	歯科健診	希望者	7	京都府歯科医師会	洛西寮医務室
7月	基本健診	全員	37	鳥羽健診クリニック	洛西寮
7月	子宮癌検診	20才以上女子	3	医療機関	洛西NT病院
11月	乳癌検診	30才以上女子	2	医療機関	洛西NT病院
12月	眼科検診	希望者	6	医療機関	洛西NT病院
6月 2月	耳鼻科健診	希望者	36	医療機関	豊田医院

② 通院件数

年度	通院件数
23年度	566
24年度	716
25年度	690
26年度	596 (うち介助 413)
27年度	479 (うち介助 390)
28年度	483 (うち介助 375)

2. 食生活と栄養管理

概要

利用者の栄養状態の維持や改善、食生活の質の向上を図るため、定期的に給食委員会を開催し、また嗜好調査結果もふまえて、献立や調理方法を工夫するとともに、栄養ケアマネジメント会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性に配慮した食事の提供を行っている。

成果

- ① 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた
- ② 栄養ケアマネジメントでは、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行い、評価・個別指導を行うことができた。家族への説明も実施した。
- ③ 医師の指示に従った療養食の提供と、検診結果に基づく栄養指導を実施した。
- ④ 遅出職員による夕食時の見守りが定着した。
- ⑤ スチームコンベクションを導入し、適温給食の提供などニーズにあった細かな食事対応が可能となった。ティータイムでの手作り菓子の提供も、好評を得ることができた。

課題

- ① 嗜好調査結果を確実に献立に反映させることができなかった
- ② 通所者の健康管理についての支援（肥満、慢性疾患）

実績

① 行事食一覧

行 事	内 容
開所記念日 (4/20)	赤飯、さわらの木の芽焼き、茶碗蒸し、清汁
子供の日 (5/5)	米飯、とんかつ、豆腐の中華煮、青菜のお浸し、味噌汁、桜餅
七夕 (7/7)	七夕2色そうめん、かぼちゃのそぼろ煮、ほうれん草のみぞれ和え、キラキラゼリー
土用の丑 (7/29)	米飯、海老と夏野菜の天ぷら、うなぎの三杯酢和え、清汁、抹茶くずまんじゅう
敬老の日 (9/16)	あずきときのこの炊き込みごはん、ちくわの磯辺揚げ、胡瓜とわかめの酢の物、味噌汁、炭酸まんじゅう
ハローウィン(10/28)	ケチャップライス、鶏肉ときのこのかぼちゃシチュー、レタスサラダ、かぼちゃようかん
クリスマス (12/24)	クリスマスプレート（ローストチキン、ナポリタン、フライドポテト、温野菜）、カラフルサラダ、コーンポタージュスープ、とろけるチョコプリン

お正月 (1/1～1/3)	お雑煮（白味噌、すまし風、あんかけ）、数の子、かまぼこ、だし巻き卵、伊達巻き、田作り、昆布巻き、黒豆、紅白生酢、豆きんとん、たたきごぼう、酢れんこん
	ホットプレート（焼肉）大会、ボン酢味の寄せ鍋
七草粥 (1/7)	七草粥、豆腐と冬瓜のそぼろ煮、味噌汁、牛乳
節分(2/3)	恵方巻き、鯛の甘露煮、青菜のねぎ味噌和え、清汁、福豆
ひなまつり(3/3)	ひなまつり寿司、ごぼうとこんにゃくの時雨煮 清汁、ひなあられ

3. 歩行訓練

概要

- ① 利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した
- ② 新しい利用者等に対する施設館内でのファミリーリゼーション（環境理解）
- ③ 通所利用者に対する単独通所のための歩行訓練
- ④ 入所利用者に対する単独歩行での帰省のための歩行訓練
- ⑤ 利用者に対する白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ⑥ 利用者に対する寮周辺店舗や歯科までのファミリーリゼーション（環境理解）
- ⑦ 利用者に対する店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

成果

- ① 利用者に対して単独歩行による通所を想定した歩行訓練を行い、通所が可能になり、施設利用に繋がっている。
- ② 入所利用者に対して実家への単独帰省をするための歩行訓練を行い、家族や本人への心理的支援にもつながっている。
- ③ 新しい利用者等に対して洛西寮館内のオリエンテーションを行い、施設利用をスムーズにしている。
- ④ 洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、施設での安定したQOL向上に向けた支援を提供している。
- ⑤ 実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行った他、ボランティアに対する講習で、視覚障害に対する理解を深めている。

課題

- ① 利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない。

実績（延べ人数）

- ① 自宅から洛西寮への通所の訓練 2名
- ② 洛西寮館内のファミリーリゼーション 3名
- ③ 洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練 3名
- ④ 単独歩行の基礎技術の訓練 2名
- ⑤ 洛西寮から実家への帰省の訓練 1名

4. 余暇活動支援（共通の活動）

概要

らくさい作業所、ちくりんとの共通活動を通して交流を深め、利用者一人一人が余暇活動を楽しみ、リフレッシュできる環境作りに努めた。

10月より利用者と職員の交流を図る目的として、毎週水曜日の午後3時より「喫茶サービス」事業を企画した。

今年度は第1、第2、第4水曜日を共通活動日とし、第1、第2、第3金曜日は、ボランティアによる選択科目のサービス提供を行った。

成果

- ① 毎月第2水曜日に外部講師による「ヨガ」を取り入れ、呼吸、姿勢、瞑想を組み合わせた、心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得る良い時間となり支援員と一緒に行った。
- ② 音楽（合唱指導）を第4水曜日に実施し、リクエスト曲や季節に応じた曲の指導を受け、音楽を楽しみ心身共にリフレッシュ出来た。今年度も洛西寮まつり・クリスマス会の行事には、全員参加で合唱発表を行った。
- ③ 第1水曜日は、ウォーキング、カラオケ、卓球バレー等を企画し実施した。
- ④ 毎週水曜日実施の「喫茶サービス」事業は、利用者の参加率も高く、事業所間の利用者の交流や職員との交流が図れた。
- ⑤ 長期休暇、土日祝の日直職員による日中活動の提供を行った。特に茶話会が好評であった。

課題

- ① 視覚障害者団体、地域等の行事・催し等の参加への働きかけと引率者の確保
- ② 休日及び長期休暇等の余暇活動の提供
- ③ 参加率の高い企画等の検討

実績

① 日中活動支援

内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・招待催し

② 選択科目

科目	利用者人数	内容
点字	6名	各習熟度に応じた点字の読み書き練習
社会	9名	テーマにそっての情報提供（新聞記事等）

5. 買い物支援サービス

概要

- ① 希望者を対象に毎月1回、イオンと近所の店舗へ買い物支援をする
- ② 買物を通して、地域との関わり・マナーを学んで行く

成果

- ① 単独での買物が困難な利用者が安心して利用できる機会の提供、必要なものの購入意識を持ってもらうことも出来た。
- ② 日用品の定期的な購入等、買物を体験出来る機会を設け、知識や経験を積むことで自信へと結びついてきている。
- ③ 支援員と一緒に同行し、目的とする品物を利用者個々に応じ、わかりやすく説明をすることで安心して買物が出来た。
- ④ 今年度から事業所別で買い物へ行くようになった。近所の買い物では、前年度の3倍の利用があった。

課題

- ① 申込者が多く、手引きの確保が困難になってきている。

実績

- ① 年間延人数＝近所：260人、桂川イオン：38人
- ② ちくりんでは、毎週木曜日を買い物支援日と設定

6. ボランティア支援サービス

概要

今年度は、総勢 47 名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の支援の充実を図るため、様々な分野で協力を得た。

成果

- ① 洛西寮まつり等の行事における要員ボランティアの確保
- ② 春の行事、法人研修旅行、休日及び長期休暇の個別の外出支援（買い物、映画鑑賞、散策等）、作業所別の余暇活動支援における手引きの確保
- ③ 選択科目における点字指導や社会での情報提供
- ④ 利用者とボランティアとの交流を深める自治会行事の実施（七夕会、クリスマス会）
- ⑤ 朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「こんな話あんな話」の情報提供、水曜日の「読みかきサービス」および毎週土曜日の対面朗読
- ⑥ 繁忙期における作業の協力（下請箱作業と縫製作業）

課題

- ① ボランティア登録者の高齢化
- ② 休日の外出支援ボランティアの確保調整。

実績

- ① ボランティア登録者数 47 名（平成 28 年 3 月 31 日現在）
- ② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	168
朗読	571
選択科目	139
手引き	117
行事	96
合計	1,091

※朗読のうち 読み書きサービス実績

サービス利用者合計	寮生	外部	ボランティア
102	58	44	91

B. 三療事業部

1. 盲人ホーム 美鈴

概要

利用者の研修及び、事業運営の要となる患者数は、今年度 6,029 名 前年比 96%であった。

28 年度利用者の動向は、新規利用者 1 名、修了利用者 1 名であった。職員の動向は、1 名減り 2 名体制になった。

美鈴は、平成 19 年 9 月に新築開設後 着実に実績を積み重ねてきており、今年度も安定した事業運営のもと、開業による研修終了者 1 名を出す実績を上げることができた。

成果

① 患者数の推移

- ・ 患者数 6,029 名 目標の 6,000 名を達成
- ・ 鍼の患者数は 1,327 名 前年度比 102% 総患者数に対し 22%であり、当初目標の 20%を達成できた。「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」利用者増。延べ利用人数 362 名（昨年度 341 名）

② 利用者の技術向上のための取り組み

- ・ 利用者間や指導員による施術スキルチェックをしてスキルアップに努めた。
- ・ 施術した患者の施術報告を作成して、利用者とは指導員で施術方法や手技などを話し合い学習した。
- ・ 朝礼で学習会を行った。

③ 世界盲人連合アジア太平洋地域協議会(WBUAP)に、モデル事業所として認定され、表彰状と楯を受けた。

WBUAP＝従来の東アジア太平洋地域協議会に東南アジア諸国のすべてが加わり、2001 年 9 月独自の定款を有する地域協議会として組織された。各国における視覚障害者の当事者及びその支援者などの団体が加盟する国際組織であり、職業問題への取り組み・情報通信技術の普及と文化活動等を行っている。

- ④ 京都府立盲学校生徒 1 名の実習を受け入れ実施した。
- ⑤ 洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た。
- ⑥ 船岡秋のスタンダードにて有料マッサージに参加

課題

- ① 患者数 前年度実績を確保するように努める。
- ② 就労支援事業としてのシステムを構築する。
- ③ 利用者の個別ニーズを反映できる支援計画を作成する。
- ④ 朝礼での学習会を充実させていく。

実績

- ① 年間患者数=6,029 件（前年比 96%）
- ② 年間売上=20,294,600 円（前年比 97%）

2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」

概要

開所から4年目、施設利用者の各種スキルアップが促進した年となった。

特に、施術スキルアップは顕著に観られ、それが売り上げアップ・患者数増とつながった。また、利用者の個別の施術スタイル及びスキルアップの重要性を感じ、いかにニーズアセスメントスキルが必要であり、支援者側の関わりのスキルが求められていることを痛感した。さらなる施術スキルアップを図るための支援方法の可能性を秘めた、ステップアップマスターズ（能力開発手法）及びこれと連動している支援計画の必要性を検討し、着手することとなった。

次に、ソーシャライズ（社会性）の強化を図るためのビジネスマナー講座は、利用者のシフトの調整が難しく来年度に持ち越すこととなった。

一般就労への支援に関しては、求人の情報収集の早さが鍵となり、関係団体との連携による情報の共有が求められている。

5年目を迎える来年以降は利用者の動向を予測し、次なる進路への支援体制の準備を図らなければならない。その一つとして、視覚障害者専門のジョブコーチの養成の必要性を検討したい。

成果

- ① 利用者の各種スキルアップにより、売り上げ・患者数ともにアップした。（実績参照）
- ② コーチング及びカウンセリングの導入により、指名数がアップした利用者が増えた。（個別・月別指名数を参照）
- ③ 利用者と支援者の相互の認識と理解の重要性が解った。
- ④ 個別の施術スタイルを確立することが、スキルアップにつながることを解った。
- ⑤ アセスメント及びモニタリングの重要性が再確認できた。
- ⑥ 強み・興味・持ち味などへの気付きの重要性を知った。
- ⑦ 利用者の自己理解・仕事理解・意志決定が促進された。
- ⑧ 洛西寮まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た。

課題

- ① ステップアップマスターズの作成と導入
- ② 支援計画の改善
- ③ 職員の関わりのスキルアップ
- ④ 利用者のコンディション管理

- ⑤ 利用者のメンタルケア
- ⑥ 最低賃金の保障
- ⑦ らくさい治療院のさらなる周知と集客
- ⑧ 安定した経営ができる収支分析と目標設定

実績

- ① 年間患者数=5,986人（前年比105%）
- ② 年間売上=19,690,400円（前年比105%）
- ③ 平均賃金

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
119	15,926	18,242,478	153,298	1,145

- ④ 年度別月平均個別指名数の推移

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	指名合計	患者数
H25	42.4	74.9	60.3	20.8	15.4	9.5	14.8		7.2		245.3	427
H26	59.7	70.8	55.3	42.9	26.8	16.6	12.8	3.8	11.7		300.4	446
H27	67.3	66.1	66.7	47.0	33.4	24.0	11.3	10.0	8.0		333.8	473
H28	74.8	74.4	74.2	46.8	35.5	30.7	7.9	21.5	9.8	3.8	379.4	499

C. 法人

1. 事務局

概要

① 社会福祉法人改革への対応

- ・定款の全部改正
- ・評議員選定委員会の設置及び開催
- ・次期評議員の選任

② 京都市関係

- ・補助金
 - 盲人ホーム事業補助金
 - 民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備、借入金元本返済）
 - 民間社会福祉施設 施設整備利子補給金（借入金利息助成）

③ 助成金等関係

- ・ 社会福祉法人清水基金より補助金（点字製版機購入）
- ・ 独立行政法人福祉医療機構より貸付資金（エレベータ改修工事）
- ・ 公益財団法人京遊連社会福祉基金より助成金（巡回相談用自動車）
- ・ 特定就職困難者雇用開発助成金
- ・ 障害者雇用納付金制度報奨金

④ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行・ホームページの更新

- ・ 機関誌「楽西」については年2回（8月と1月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。
- ・ ホームページについては、法人事務局において「社会福祉法人現況報告書」の掲示等更新をした。

成果

- ① エレベータ改修工事完成（平成28年6月）
- ② 点字製版機更新（平成28年7月）
- ③ スチームコンベクションオープンの導入（平成28年11月）
- ④ 社会福祉法人法改正での定款変更（平成29年2月）

課題

- ① 洛西寮利用者の確保
- ② 洛西寮の建物・設備等老朽化による更新
- ③ 勤怠管理におけるタイムカードの導入
- ④ 経費削減のための精査
- ⑤ 中長期の事業計画立案

実績

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・ 洛西寮 ・ ちくりん ・ らくさい作業所	施設入所支援（30名） 生活介護（20名） 就労継続支援B型（20名）	平成23年10月1日 平成23年10月1日 平成25年4月1日	40名
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	昭和57年4月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	昭和52年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和57年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	平成25年4月1日	10名

障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成 26 年 3 月 1 日	
------------------------	----------	-----------------	--

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	25	平成 27 年度事業報告並びに決算案について	理事 9 名 監事 2 名
5	26	理事長の選出について	理事 9 名 監事 1 名
9	28	社会福祉法人改革について	理事 9 名 監事 2 名
11	30	定款の変更、評議員選定委員会の設置について	理事 9 名 監事 1 名
1	25	次期評議員候補者の選定について	理事 9 名 監事 1 名
3	22	平成 29 年度事業計画及び予算案について	理事 9 名 監事 2 名

・評議員会

月	日	内 容	出席者数
5	25	平成 27 年度事業報告並びに決算案について	理事 2 名 評議員 13 名 監事 1 名
11	26	定款の変更について	理事 2 名 評議員 14 名
3	18	平成 28 年度事業計画及び予算案について	理事 2 名 評議員 10 名

・監査会

月	日	内 容	出席者数
5	18	平成 27 年度事業報告及び会計監査について	理事 1 名 監事 2 名

③ 法人運営会議

2 箇月 1 回

④ 法人事務局会議

月 1 回

⑤ 法人登記事項

資産の変更登記（平成 28 年 5 月 30 日）

資産の更正登記（平成 28 年 12 月 22 日）

2. 点字出版施設「紫野点字社」

概要

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他の受注では、保健福祉局・環境政策局・上下水道局・選挙管理委員会などから市民しんぶん挟み込みタブロイド紙の点字版を製作した。

また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。

京都市以外では、全国盲導犬施設連合会や社会福祉協議会、視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

成果

- ① 視覚障害者やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
- ② 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
- ③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。
- ④ 過去5年間では、パソコン製版とはがき・名刺印刷で最高枚数を記録した。

課題

- ① 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
- ② 市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
- ③ らくさい作業所点字印刷能力と受注への調整
- ④ 京都市への入札における競争力のある価格の検討
- ⑤ 後継者の育成

実績

作業内容	実績
製版	5,701 枚
印刷機印刷	463,483 枚
パソコン製版	705 枚
パソコン印刷	10,486 枚
点字名刺、はがき	3,016 枚
点字シール	1,502 枚
発送	1,443 件
墨字印刷	44,263 枚
墨字入力	11 枚

3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業

概要

① 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業の大きな変化は、相談員が一人加わり、二人体制で行っていた京都府全域の訪問を三人で担当するようになったことである。中部南部地域で相談員体制を強化することになったのだが、今まで手が足りず十分行えていなかった地域での活動を活発化し、新しい交流や連携を生み出した。対象者数 260 人・延べ派遣回数 664 回で、いずれも前年比で約 1.5 倍に迫る相談の増加につながっている。

今年度は、宇治、城陽、京田辺で特に相談の増加が著しいが、南部拠点の南部アイセンターと相談員の配置増員が大きい。新しい取り組みと拠点の周知などにより、情報発信・交流・啓発が進んだことが大きな要因になっている。

視覚障害は情報の障害と言われる。福祉的な情報について耳に入らなければ、また身近に相談を受けられる機関がなければ、生活を改善できる可能性を知らないまま在宅で生活を続けることになる。社会と視覚障害をつなぐしくみが、それぞれの地域特性に合わせて生まれてきていることが、最近の成果の表れである。

② 南部サテライト事業の取組

本格実施から 5 年目を迎えた定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）も、地域で定着が進み、京田辺、宇治、長岡京で毎月 1 回、久御山、木津川では不定期に開催をし、全会場で合計 41 回開催、延べ 429 名の当事者が参加している。

相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加できる機会を提供するなど、生活の質を向上できる大変有効な支援事業である。

③ 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センター、京都ライトハウスと当法人が共催で実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加し、またその場では解決しないニーズに対しては、後日訪問し、ケースによっては継続的に対応している。視覚相談会には、今まで福祉につながっていないような相談者が参加するというケースも多く、埋もれているニーズの発掘につながっている。

内容：個別相談・ロービジョン相談・視覚リハ訓練紹介・視覚障害者用機器・盲導犬・講演等

成果

- ① 補装具、日常生活用具、機器の紹介・活用方法についての支援
- ② 障害年金請求申請手続きの説明など、経済的問題解決に対する情報提供と支援
- ③ 視覚障害受障後の障害受容相談支援と生活訓練への橋渡し
- ④ 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政への橋渡し

- ⑤ 介護保険利用者に対する制度利用の支援等、介護サービス事業者との連携
- ⑥ 福祉事務所の担当者に対する最新の福祉機器などの情報提供
- ⑦ 一般就労・福祉的就労の環境調整とその心理的支援
- ⑧ 視覚障害者の社会参加促進と生きがい創出
- ⑨ 急な状況変化が生じた相談者への緊急的な環境調整
- ⑩ 医療との連携による、障害福祉の情報提供と制度利用までの調整

課題

- ① 対象地域が広範囲なこと、地道な潜在的視覚相談ニーズの掘り起こしによる相談件数の増加・相談ケースの深刻化など、スタッフ人員配置不足。
- ② 視覚障害者を福祉サービス、障害者地域生活支援センター、行政、医療機関、当事者団体、情報ソース、地域等と連携し、つなぐシステムづくり。
- ③ 市町村窓口に対する本事業のさらなる周知と連携・広報などの協力支援体制の構築。
- ④ 京都府北部、中部に存在する視覚障害者に対する相談、情報支援等の福祉サービスが提供できるよう、拠点施設機能の拡充。

実績

- ① 過去5年間の相談件数比較（延回数）

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
307	424	450	450	664

- ② 南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数（延べ）
京田辺	12	100
長岡京	11	136
宇治	12	138
精華	1	2
木津川	1	3
散策・企画	4	50
計	41	429

- ③ 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
5月18日	綾部市	綾部市立病院	11:00～15:30
7月29日	南丹市	園部公民館	10:30～15:30

9月26日	京田辺市	京田辺市立社会福祉センター	10:30～15:30
11月9日	与謝野町	北部医療センター	11:00～15:30
1月23日	精華町	精華町役場	10:30～15:30
3月17日	長岡京市	長岡京市立産業文化会館	10:30～15:30

4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

概要

- ① 平成24年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなった。
- ② 入所利用者を優先して、計画を立てている。
- ③ ピアカウンセリングを導入し、利用者のカウンセリングを行う。

成果

- ① アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催
- ② ピアカウンセラーにより希望者のみのカウンセリングを実施

課題

- ① 相談支援専門員が施設生活支援員と兼務しているため、時間の確保が困難
- ② 通所者の場合、西京区の事業所にもかかわらず、他の行政区、京都市外、京都府外の利用者の計画相談を受ける時があるが、十分な対応をとることができない

実績

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	0	0
5月	2	0
6月	6	1
7月	1	1
8月	0	1
9月	4	5
10月	7	2
11月	2	1
12月	1	0
1月	1	2

2月	4	1
3月	1	1
合計	29名	15名

・カウンセリング・・・29名（延べ人数）

5. 主催行事

① 第31回 洛西寮まつり

概要

開催日時 平成28年9月3日（土） 11時～15時

会場 障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内容

- ・イベント（利用者自治会洛友会による合唱、同志社大学マジック・タップダンスサークル、ゲーム大会）
- ・模擬店（焼きそば、たこ焼き、からあげ・枝豆、かき氷、ポテト、ビール、ジュース、クレープ、ボールすくい、ヨーヨー釣り、洛友会輪投げコーナー等）
- ・マッサージ無料体験
- ・製品販売（洛西寮朗読ミニボランティアバザー販売、洛西寮自主製品）
- ・視覚障害体験（点字の名刺作り、アイマスク体験、卓球バレー、機器紹介等）

成果

- ① 天候にもめぐまれ、多くの地域住民が来場し、盛大な洛西寮まつりとなった
- ② イベントを12時からとずらしたことで前庭との販売などと人の流れがスムーズだった。
- ③ 点字のネームプレート作成、イベントのゲーム大会など参加型のもので盛り上がった。
- ④ 小さい子ども達から大人まで幅広い層の方の参加で、地域のつながり、洛西寮祭りの定着を感じた。
- ⑤ 盲人ホーム美鈴のご家族の屋台のクレープ屋さんなどにもきてもらい、利用者はじめ多くの方が購入され目標の100個を売り上げた。
- ⑥ 市営住宅への事前チラシ配布、当日は横断幕や立て看板で洛西寮まつりの開催を知らせたので多くの来場を得た。
- ⑦ 体験コーナーの卓球バレーでは、利用者と来客者が一緒になって取り組んでいた
- ⑧ 本会場とマッサージ会場が200メートルほど離れた場所にあるが、宣伝と誘導に力を入れた
- ⑨ 30周年に作ったポロシャツで利用者、職員ともに統一され、一体感がでていた。

課題

- ① 他施設の参加で、広報、集客が出来るのではないか。
- ② 例年飲食が、早くに完売することで増量したが、来場者数も多く売り切れ、クレープなどは待ち時間が長かったので利用者分は事前注文などをすることで防ぎたい。

- ③ 飲食場所の拡張
- ④ 来場者数の把握方法
- ⑤ 法人負担金の設定、それに伴うイベント等の企画内容の検討
- ⑥ 近所の方への周知の仕方や、チラシの配布時期を早期に。
- ⑦ 職員の高齢化にも伴い、学生ボランティアの確保及びボランティアの配置
- ⑧ 駐車場の借用

実績

来場者：約 400 名

協力ボランティア：44 名（登録 33、実習生他 11）みやびワイズメンズクラブ 5 名

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、読売光と愛の事業団

後 援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会

協 力：みやびワイズメンズクラブ

② 第 31 回法人研修旅行

概要

開催日時：平成 28 年 11 月 17 日（木）～18 日（金）

行 先：金沢兼六園、山代温泉

内 容

1 日目：兼六園・りんご狩り

2 日目：越前陶芸の森、日本海さかな街

宿 泊 先：山代温泉 葉渡莉（はとり）

成果

- ① 利用者ニーズをとらえ希望参加とした。
- ② 初日は小雨模様であったが、北陸の風情を堪能できた。
- ③ 味覚狩り、御当地グルメ、試食等、視覚障害者が楽しめる企画を行うことが出来た
- ④ 事前の打ち合わせにより、食事制限のある方にも十分な対応をしてもらえた
- ⑤ 宴会では、班対抗のゲームやイントロクイズ、ビンゴゲームで大いに盛り上がった
- ⑥ 旅行会社 3 社に見積もり・プラン作成を依頼。結果、充実した内容になった

課題

- ① 利用者ニーズの多様化への対応
- ② ボランティアの確保・養成強化

- ③ 予算確保
- ④ 上記課題を含めた総合的な法人研修旅行のあり方検討

実績

過去5年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
24	焼津	45人	20人	16人	81人
25	北陸	49人	23人	17人	89人
26	和歌山	46人	21人	19人	86人
27	愛知・三重	48人	20人	20人	88人
28	金沢	33人	20人	9人	62人

③ 西京区視覚障害者支援ボランティア養成講習会（第6回、第7回）

概要

第6回開催日時：平成28年5月28日（土）・6月6日（月） 10:00～16:00

（オプション＝6月11日（土）・13日（月） 13:30～16:30）

第7回開催日時：平成29年3月11日（土）10:00～16:00

会 場：障害者支援施設 洛西寮 会議室

内 容：視覚障害についての講義、弱視体験、アイマスクでの昼食、手引講習など

（オプション：点字・朗読、利用者との近所の買い物）

・例年、西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で年に一回開催し、今年度は、5月と6月に第6回目として開催したが、参加者が少ないことが課題として残った。参加者が少ないことは、ここ最近の傾向になっている。そこで、西京区社会福祉協議会と西京視覚障害者協会とも協議し、再び協力も得て、世間的にも新年度を迎える直前の3月に試行的に第7回を開催することにした。結果として、今年度は2回ボランティア養成講習会を開催している。基本的には、次年度以降は年に一回のペースで開催する予定である。

成果

- ① 西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で、講習内容、外部講師などで協力を得た。
- ② 当法人のボランティアや地域のボランティアサークルの協力を得て、連携を深める機会にもなっている。
- ③ 地域への視覚障害福祉啓発の役割を果たしている。
- ④ 西京区社会福祉協議会との共催により、広範な宣伝や補助金による運営支援を受けている。

課題

- ① 養成後の施設側の再講習及び支援技術向上に向けた学習の場づくりの未整備。
- ② ボランティア登録後の継続が難しい。
- ③ 参加者数の低迷が続いている。

実績

参加者数：第6回 4名（洛西寮ボランティア登録者数4名）
第7回 3名（洛西寮ボランティア登録者数1名）

6. 共催事業

① 第50回白杖安全デー（京都市内）

概要

日時：平成28年10月10日（月・祝）11時～15:30
会場：集会 京都ライトハウス4階「あけぼのホール」
パレード 京都ライトハウス～北野天満宮
テーマ：「誰もが安心して歩ける道・KYOから未来へ」
参加者：約300名

成果

- ① 集会では、「明日へつなげるリレートーク」と題して、視覚障害当事者や関係者からの訴えを通して「安心して歩ける福祉の街づくり」について考える場を共有することが出来た。
- ② パレードでは、シュプレヒコールや啓発のチラシを用いて、より広範な市民に対して視覚障害者の安全な歩行環境についての理解を求め、また視覚障害者にとっての「声かけ」の重要性を訴えることが出来た。

② 第42回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

概要

開催期間：平成29年2月2日（木）～5日（日）10時～18時
会場：大丸京都店6階イベントホール
内容：

- ・催し

リオパラリンピック銅メダリスト廣瀬順子氏のトークやお箏の演奏等各種ライブ、銅駝美術工芸高校研究発表、講演、絵画コンクール表彰式、ライトハウス朱雀紹介 等

- ・体験・展示コーナー

音の3D体験、キッズゲーム、シネマ・デイジー紹介、点字体験、ロービジョン体験、ブラインド喫茶、誘導体験、ボランティア活動紹介、ライトハウス朱雀紹介、パラリンピック紹介等

- ・絵画コンクール

小学生を対象にした絵画 191 点を展示

- ・販売コーナー

関西盲導犬協会、FS トモニー、洛西寮

参加者：約 1,900 人（4 日間）

③ 第 1 回 京都視覚障害者「チャレンジ・ラン」

概要

開催日：平成 28 年 11 月 13 日（日）

会場：京都市立楽只小学校運動場

参加者：1 名（洛西寮）

成果

一定時間内の走行距離を計測することで、参加者のモチベーションや身体能力への関心を高め、運動の喜びを実感することができた。

課題

練習不足。

参加者数の減少。

総括

西京極総合運動公園でのマラソンがなくなり、チャレンジ・ランになったが、利用者には馴染みがなく、こういった競技なのかが伝わりにくかった。今後はもっと早くから広報や説明をしていき、利用者の参加を促していく。